

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



秋分の日に寄せて

9月23日(木)は学校がお休みでした。秋分の日という祝日です。3月には春分の日という祝日があり、やはり学校はお休みになります。



春分、秋分というのは太陽の動きと関係があり、この頃は、昼と夜の時間がだいたい同じになります。一日は24時間と決まっていますから、昼が長くなればその分夜は短くなります。春分の日を境にしてだんだんと昼の時間が長くなり、夏に向かっていきます。そして、秋分の日を境に、だんだん夜の時間が長くなっていきます。夕方暗くなるのが早まるのはそのためなのです。

ところで、なぜこの日が国民の祝日として特別なのでしょうか。春分の日、秋分の日共に、古くから日本の皇室(天皇の家族)で特別な行事が行われていました。亡くなった歴代の天皇や、天皇家の先祖の霊をまつる儀式が行われていました。国民もそれぞれの先祖をうやまい、亡くなった人々を偲びましょと、昭和23年に秋分の日と定められ、日本国民の生活に深く根づく祝日となったのです。この時期は彼岸とも呼ばれ、皆さんの家庭でもお墓参りなどをして、先祖のことを思い起こす行事をされているかも知れません。

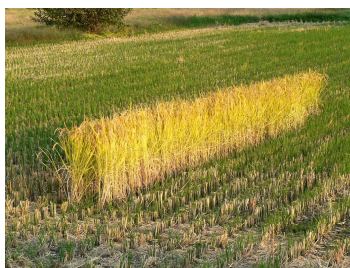
日本では、春夏秋冬の季節の変化がはっきりしていて、世界でも自然の美しい国の一つにあげられています。広い世界には、夏だけの国や冬だけの国、季節の移り変わりのはっきりしない国もあるのです。

季節と言えば、この時期、美味しい果物がたくさん出回ります。毎日、犬を連れて散歩をしますが、栗や柿の実が美味しそうに色づいています。子どもの頃、長い竹の棒の先に枝を挟み、ねじって柿の実をとったのを思い出します。実った柿を全部とってはいけないと祖父から言われ、毎年いくつか実を残していました。

これは、「木守りの柿」といって、たくさんの実をつけてくれた柿の木の神様に感謝の気持ちを込めて残すのだと教えられました。間もなく稲刈りが始まります。田んぼ一面に実った稲を全部刈り取ってしまわずに、刈り残す風習の残っている地域があると聞いたことがあります。これも、田んぼの神様への感謝、収穫できたことへの感謝を意味しているそうです。

柿の木に実が残ってれば、山のカラスや動物たちが食べることができます。キノコ採りに山に入った人が、見つけたキノコを根こそぎ採るのでなく、来年のために必ず数本残して山を下りるといいう話を聞いたこともあります。

秋の夜長に空を見上げると、中秋の満月から少し欠けた月が、それでも明るく輝いています。今日も一日無事であったことを喜んだり、これまでの世の中をつくってきてくれた昔の人たちのことを思い起こしたりするゆとりが持てたらいいですね。自分の幸せだけでなく、周りの人や日本中の人、世界中の人が同じように幸せでいられる世の中にしたいです。



これからの日本、世界をつくるのは今の子どもたちです。ですから、天沼小学校の子どもたちには、赤く色づいた柿の実や、頭を垂れて豊かに実った稲穂を独り占めするのではなく、みんなで分かち合える心のゆとりをもった大人に育てて欲しいと願います。

同時に私たちが大人は、子どもたちが生きる未来に、今の豊かさを残しておく責任があるのだと思います。